

コメディリリック第6回「ラブラブチャレンジャー」

「相席男」

登場人物

高島

ペイリー・チャイルド

大輔

野彦

白井

シロスコフ

※高島、大輔、板付き

【L・明転】

大輔 「どんな子、来るんですかね！」

高島 「えらいはしゃいでんじやん」

大輔 「俺、相席屋来るの初めてなんですよ」

高島 「あーそうなんだ」

大輔 「何か、作戦とか立ててきますか？」

高島 「いいよ、そんなん」

大輔 「王様ゲームとか一応、用意してきたんですよね」

高島 「そんないきなりゲームとかはダメだよ？ちゃんと自己紹介してある程度話してからじゃないと」

大輔 「うわー今日、いきいてーなあ！」

高島 「頑張つて」

大輔 「高島さんが好みの子がいたら、ちゃんと、そうじゃない方の女の子にいくんで」

高島 「そんな気を遣わないでいいよ」

大輔 「涎を付けて、眉毛を整える大輔」

高島 「海外のダンディな人がやつてる以外で初めて見た」

※白井、登場

すつと座る白井

「え」

「え」

「え」

「あの…ここ、僕らのテーブルで」

「はい」

「いや、なので…え」

「店員さんに案内されて」

「え…そうなんですか？え？」

※高島、はける

大輔 「初めまして」

白井 「初めまして」

大輔 「え、男性の方ですよね？」

白井 「はい、そうです」

※高島、登場

高島 「何か、女性が足りないらしくて、とりあえず、これでつて…」

大輔 「そうなんすか」

高島 「えーこんなパターンあるんだ」  
大輔 「あの…名前聞いてもいいですか？」  
高島 「え、進める？」  
白井 「白井と申します」  
大輔 「下の名前は？」  
白井 「祐輔です」  
大輔 「え、俺、大輔って言うんですよ！似てますね」  
白井 「はは、そうですね」  
大輔 「え、祐輔君、出身は？」  
白井 「福岡で」  
大輔 「福岡なんだー！もつ鍋とか美味しいよねー？」  
白井 「もつ鍋食べれないんです」  
大輔 「え！？そうなの？とんこつは？」  
白井 「とんこつは大好き！」  
大輔 「とんこつは食べれるんだ」  
白井 「逆にラーメンはとんこつじゃないとダメで…」  
大輔 「それ言うよね！俺の友達の福岡出身の奴も言ってた」  
高島 「楽しそうだな」  
白井 「大輔さんはどちらですか？」  
大輔 「俺は埼玉でー」

白井 「あ…ださいたま…」  
大輔 「あ！デイスってんじやん！（笑）」  
白井 「冗談ですよ（笑）冗談です（笑）」  
大輔 「まあ、何もないけどね」  
白井 「そんなことないですよ」  
大輔 「じゃあ、埼玉って聞いて何が浮かぶ？」  
白井 「えーと…」  
大輔 「ほら浮かばないじゃん！（笑）」  
白井 「ごめんなさい！（笑）」  
高島 「あ、店員さん来たよ」  
白井 「あ、ここで大丈夫です」  
高島 「なんでだよ！」  
大輔 「高島さん、いいじゃないですかー」  
白井 「ちよっとお手洗い行って来ますね」  
大輔 「うん」

※白井、はける

高島 「え、いいの？女と相席しに来たんじゃないの？」  
大輔 「いやーでも悪い人じゃないし、チエンジって言うのもなんかなーって思ってた」  
高島 「あの人も何で店員さん断ったんだ…？ゲイの方なのかな？」

※白井、登場

大輔 「祐輔ちゃん、ゲイなの？」

高島 「馬鹿！」

白井 「いや、僕はゲイってわけじゃないですよ。今日だって女の子と相席しに来てますし」

大輔 「あ、そうなんだ」

高島 「え、じゃあ、なんで店員さん断ったんですか？」

白井 「もう少し、この席でもいいかなって」

大輔 「祐輔ちゃん…イエ」

白井 「イエ」

大輔 「どうします？王様ゲームします？」

高島 「する？楽しいか？」

大輔 「やりましょう！せっかくあるんで！ルールは王様が出たら指令カードをアプリで開いて、番号を指定する感じです」

箸を出して、引く

二人 「王様だーれだ！」

王様が出たらリアクション

大輔 「〇〇が王様だ！」

王様 「じゃあ：（スマホを見ながら）1番が2番を後ろから抱きしめる」

白井 「えー」

大輔 「マジかー」

やる

大輔 「次行きましょう！」

箸を出して、引く

二人 「王様だーれだ！」

王様が出たらリアクション

大輔 「〇〇が王様だ！」

王様 「じゃあ：（スマホを見ながら）1番が2番の手の甲にキスをする」

白井 「えー」

大輔 「マジかー」

やる

高島

「何が楽しいんだよ！これのよう！ノンケの男が三人だよ！」

---

大輔 「(小声で) 高島さん…いきますか？」

高島 「なに？」

大輔 「(聞こえる声で) 高島さん、いきますか？」

高島 「いかねーよ！馬鹿！」

ちよっと落ち込む白井

大輔 「祐輔ちゃんどうしたの？」

白井 「いや、そんな気が無いにしても「いかない」って言われたら傷つくなって思っ  
て」

高島 「いやいや、色々おかしい」

大輔 「あ、店員さん来た」

白井 「あ、ここで大丈夫です」

高島 「出て行け！」

【L・暗転】

——了——